

クローズアップ

『青年部会と後継者育成』

広島県鉄構工業会・青年部会の足跡

【最終回】

「自立への道」

親会は、青年部会組織の

0万円を計上し、費用の面でも全面的なバックアップ体制を整えた。

県内2カ所にし、参加しやすい形で実施している。

ファブの存在感を示す

第25回総会以降、ローバ

リニユーアルに続いて、活動費についてもこれまでの補助金方式を変更し、16年度予算では親会の本会計に青年部会活動費として20

親会では、岩土英爾氏が親会の理事に就任して部長を退いたため、新部会長

ル工法や研削砥石など講習会を開催しているなかで、特筆すべき事業は日本建築学会中国支部主催の学術セミナーで青年部会が講師を務めたことだろう。

工場長が就任。

9月24日、広島工業大



参加しやすい活動を目指す船山新部会長のもと、砥石の講習会を実施。県内2カ所で開催して会員の負担軽減を図った

船山新部会長は「会員の負担軽減による参加しやすい活動の実施という前部長の路線を継承し、同時に各会員の要望に耳を傾けて応えていく」と方針を表明。この後、実施した砥石の講習会(研削砥石取替試運転作業)でも、方針通り開催場所を

合」の4種類の製作分析(コスト含む)を担当し、パワーポイントを使っておよそ30分にわたって詳細に解説した。

広島青年部会の歴史上、学者や設計者などが主催する学術セミナーで講師を務めるのはこれが初めてのことだ。同組合は「建築学会が当組合の青年部会の施工技術・知識を評価した結果といえる。青年部会としても準備段階で大学教授や構造設計士らと率直な意見交換ができたことは、極めて

貴重な体験であり、今後への大きな財産になるだろう」と高く評価している。こうした活発な活動を展開するなかでは、事業の準備などで不備が生じるケースもあつた。青年部会はこれに対して「まだまだ改善項目はたくさんある。組織としてまだまだ未熟なため、今後もこうした試行錯誤が続く」と謙虚に反省し、課題を自ら設定して前向きに解決に取り組み

第10回鋼構造セミナーでは、日本建築構造技術者協会(略称・JSCA)の中国支部の近松英樹・技術委員長と並んで船山青年部会長が講師を務めた。同セミナーは「上下階でコラム柱のサイズを変更する仕口部の設計と製作」がテーマ。青年部会は「ビルトボックス」

「テーパークラム」「既製品(スマートダイヤ)」「柱を絞らない場

うとしている。山本理事長が期待するファブという職業に対して誇りを持つ若手経営者・技術者育成が確実に前進している。

(実末和也)



写真上||広島青年部会の歴史上初めて、学者や設計者などが主催する学術セミナーで講師を務めた
写真下||日本建築学会中国支部との実大実験を数年前から実施